

ダイズの病害虫防除対策（9月）

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがあります。農薬登録情報提供システムホームページ (<https://pesticide.maff.go.jp/>) 等で最新の登録内容を確認してください。（記載中の登録内容は令和3年8月11日現在）
液剤、水和剤、フロアブル剤、乳剤の生育中の10a当たり散布液量は150～300Lとする。

1 紫斑病

- 近年、発生量は減少傾向にありますが、開花後20～40日に降雨があるとその後の感染が急激に拡大します。
- 薬剤防除はダイズの開花後20～40日後に1～2回実施してください。その際、薬剤が莢に十分付着するようにしてください。
- 収穫が遅れると発生が多くなるため、適期収穫を励行してください。また、収穫後に高水分のまま放置すると紫斑粒が増加するので、収穫後はすみやかに乾燥、脱穀を行ってください。
- 防除薬剤は、ダイズの病害虫防除対策（8月）の表1を参照してください。

2 吸実性カメムシ類

- ダイズの開花期以降に飛来し、収穫期まで長期にわたって加害します。子実肥大の初期に吸汁されると子実がほとんど肥大しません。中期以降に吸汁されると変形、変色した子実となり、商品性が著しく低下します。
- 防除は、着莢期（8月中下旬頃）～子実肥大盛期（9月中旬頃）に1～2回薬剤散布を行ってください。
- 県内での主な発生種は、ホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、クサギカメムシです。
- 防除薬剤は、ダイズの病害虫防除対策（8月）の表7を参照してください。

3 マメシクイガ

- ダイズを連作すると急激に発生量が増加することから3年以上の連作は避けて、田畑輪換を行ってください。
- 成虫は年1回、8月中旬頃に羽化します。日長時間に反応して発生するため、発生時期は大きく変動します。8月下旬～9月中旬に莢に1粒ずつ産卵し、幼虫が豆を加害して20日程度で莢から脱出して、土中で繭を作ります。
- 3年以上連作するほ場では、8月5半旬頃の防除を基本とし、多発が予想される場合には9月1～2半旬にも追加防除を行ってください。
- 防除薬剤は、ダイズの病害虫防除対策（8月）の表8を参照してください。

4 フタスジヒメハムシ

- 第1世代成虫は7月から見られ始め、子葉や葉を加害しますが実害はあまりありません。子実肥大期に莢の表面が加害されると加害部が変色し、子実に黒斑が生じ、腐敗粒となり品質を低下させます。
- 薬剤散布は子実肥大期（9月上～下旬頃）に実施してください。

表1 フタスジヒメハムシの防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 使用濃度、10a当たり使用 用量 | 使用回数 の制限※ |
|------------|---------|------|-----------------|---------------------|--------------|
| アルバリン顆粒水溶剤 | ジノテフラン | 4A | 収穫7日前まで | 3,000倍 | 2回以内 |
| アルバリン粉剤DL | ジノテフラン | 4A | 収穫7日前まで | 3kg | 2回以内 |
| スタークル液剤10 | ジノテフラン | 4A | 収穫7日前まで | 1,000倍 | 2回以内 |
| スタークル顆粒水溶剤 | ジノテフラン | 4A | 収穫7日前まで | 3,000倍 | 2回以内 |
| スタークル粉剤DL | ジノテフラン | 4A | 収穫7日前まで | 3kg | 2回以内 |
| ダントツ水溶剤 | クロチアニジン | 4A | 収穫7日前まで | 2,000～4,000倍 | 3回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・ジノテフランを含む農薬の総使用回数：3回以内（但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）
- ・クロチアニジンを含む農薬の総使用回数：4回以内（但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内）

5 ダイズサヤタマバエ

- 莢のごく小さいうちに莢内に産卵され、幼虫が成長すると莢や子実が成長を停止してコブのような形になります。中には綿に包まれた幼虫がいます。
- 成虫は開花期（8月上旬頃）～若莢期（8月下旬～9月上旬頃）に産卵するので、防除は着莢後期（8月下旬頃）～子実肥大盛期（9月中旬頃）に実施してください。その際、薬剤が莢に十分付着するようにしてください。

表2 ダイズサヤタマバエの防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 使用濃度 | 使用回数 の制限※ |
|---------|------|------|-----------------|--------|--------------|
| スミチオン乳剤 | MEP | 1B | 収穫21日前まで | 1,000倍 | 4回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・MEPを含む農薬の総使用回数：4回以内

6 サヤムシガ類

- (1) ダイズサヤムシガやマメヒメサヤムシガがおり、幼虫が葉や莢を加害します。
- (2) 着莢期（8月下旬頃）～子実肥大盛期（9月中旬頃）に防除を実施してください。

表3 サヤムシガ類の防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 使用濃度 | 使用回数 の制限※ |
|---------|------|------|-----------------|--------|--------------|
| スミチオン乳剤 | MEP | 1B | 収穫21日前まで | 1,000倍 | 4回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・MEPを含む農薬の総使用回数：4回以内

7 シロイチモジマダラメイガ

- (1) 被害はマメシンクイガに似ており、莢内に入って子実を加害します。
- (2) 着莢期（8月下旬頃）～子実肥大盛期（9月中旬頃）に防除を実施してください。

表4 シロイチモジマダラメイガの防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 使用濃度 | 使用回数 の制限※ |
|--------|------------|------|-----------------|--------|--------------|
| トレボン乳剤 | エトフェンプロックス | 3A | 収穫14日前まで | 1,000倍 | 2回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数：2回以内

8 ハスモンヨトウ

- (1) 野菜など多くの作物を食害し、ダイズには8月頃に飛来し葉裏に産卵します。若齢幼虫はまとまって葉裏を加害するので、幼虫がいると葉の白変が目立ちます。中齢以上になると加害量が増え、若い莢を加害することもあります。
- (2) 葉の白変が目立ったら薬剤防除を実施してください。老齢幼虫には薬剤の効果が劣ることがあります。

表5 ハスモンヨトウの防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 使用濃度 | 使用回数 の制限※ |
|-----------|---------|------|-----------------|--------------|--------------|
| ブレオフロアブル | ピリダリル | UN | 収穫7日前まで | 1,000～2,000倍 | 2回以内 |
| ロムダンフロアブル | テブフェノジド | 18 | 収穫14日前まで | 2,000倍 | 3回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・ピリダリルを含む農薬の総使用回数：2回以内
- ・テブフェノジドを含む農薬の総使用回数：3回以内